春の夜の夢ばかりなる
手枕にかひなく立たむ
名こそ惜しけれ

中一、二、三

△印…筆先を逆に入れて止める＝つく

春の夜ほどの(はかない)手枕のために、
何のかいもなく立つであろう浮き名が口惜しい。

書道総研